

MINAMI MADO

2025.2. No.54



独立行政法人 国立病院機構
大阪南医療センター

大阪南医療センター 循環器疾患センター



胸背部痛、呼吸困難、動悸等
循環器疾患が疑われる際には
緊急対応連絡先へご連絡ください。

24時間緊急対応 (ハートコール)

直通 TEL : 0721-53-3200



Instagramはこちら ▶



LINEはこちら ▶



呼吸器・アレルギー内科のご案内

当院の呼吸器・アレルギー内科では、肺および気道疾患、アレルギー疾患を中心に、幅広い疾患に対応した専門的診療を提供しております。特に慢性疾患や在宅療養が必要な患者さんには、多職種連携による包括的な医療を重視し、地域医療機関とも連携を強化しています。

主な診療内容

● 喘息

丁寧な問診および検査(気道可逆性試験、呼気NO測定、アレルギー検査など)を通じ、正確な診断を行います。特に難治性喘息患者さんには、生物学的製剤の導入や吸入療法の徹底した指導を行い、個別の治療計画を立案しています。(日本喘息学会専門医在職)

● COPD(慢性閉塞性肺疾患)

入院による多職種連携包括的呼吸リハビリテーションを提供しており、睡眠呼吸障害を合併する患者さんには、ハイフローセラピーを導入するための診療パスも整備しています。

● 間質性肺炎

超高精細CTや気管支鏡検査を含む精密な診断を実施し、膠原病関連間質性肺炎や過敏性肺炎などの鑑別診断を行います。特発性間質性肺炎には抗線維化薬の導入を支援する診療パスを使用しています。

● アレルギー疾患

アレルゲンの同定を目指し、アレルギー検査を実施。皮膚科や耳鼻咽喉科と連携して広範なアレルギー疾患に対応するとともに、エピペンの処方や指導を行っています。

● 慢性呼吸不全

在宅酸素療法、非侵襲的人工呼吸器(NPPV)、在宅ハイフローセラピーを組み合わせた包括的な在宅医療を提供しています。

● 呼吸器外科との連携

2025年4月から呼吸器外科が新たに開設され、気胸や膿胸の治療、さらに必要に応じて間質性肺炎の診断に胸腔鏡下肺生検を積極的に活用する体制を整備いたします。これにより、診断精度の向上と迅速な治療方針の決定が可能となることを目指しています。

当科では開業医の先生方からのご紹介やご相談を歓迎しております。診療連携や患者紹介に関するお問い合わせは、どうぞお気軽にご連絡ください。



呼吸器・アレルギー内科医長 奥田みゆき



多職種連携RSTチーム：適切な人工呼吸器管理のサポートのみならず患者と家族のACPと意思決定支援、歯科医師による口腔ケアと嚥下評価なども行っています。



COPDや間質性肺炎などの呼吸器疾患は、呼吸に対してより多くのエネルギーを要するため低栄養に陥りやすく、栄養状態が予後に大きく影響することが知られています。しかし、呼吸器疾患患者は呼吸困難のため食事摂取量が低下することも多く、食事内容や食事摂取法に工夫が必要になります。当院では栄養士が積極的に介入し、包括的呼吸リハビリテーション目的の入院にて総合的評価を行っています。そして、当科も積極的に栄養管理に関与し、NST活動にも参加しています。特に最近では、誤嚥性肺炎患者や食事摂取不良の患者に対して、KT(口から食べる)チャートを導入し、包括的な評価と介入を行うようにしています。



呼吸器・アレルギー内科医 本多英弘



呼吸器・アレルギー内科医 原田芳徳

睡眠時無呼吸症候群(SAS)は、主に気道閉塞に伴う呼吸停止・低酸素血症の反復で、睡眠の質の低下による昼間の眠気・倦怠感・頭痛等の症状および内臓合併症・交通事故・労働災害の誘因となります。SASは、高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・脳卒中のリスク要因となり、また、高次脳機能(認知・記憶・判断)の低下による活動・運動のパフォーマンス低下を招きます。まず、スクリーニング検査を行い、必要時、PSG検査で重症度を判定し、持続陽圧呼吸療法(CPAP療法)や口腔内装置(OA)の導入を検討します。当院は、睡眠時無呼吸外来で、SASの病診連携による指導・管理を推進しています。

私は当院で呼吸器・アレルギー科を専攻し、内科研修を開始して1年弱が経過しました。この期間、呼吸器疾患の診断や治療を通じて、呼吸器内科の専門性の高さや重要性を実感しました。また、多職種・診療所との連携や患者さんとのコミュニケーションの重要性を改めて学びました。特に、肺炎やCOPDなどの管理に加え、胸部画像診断のスキルを要する機会が多く、日々精進しております。今後も知識と技術をさらに深め、より良い医療を提供できる医師を目指していきたいと考えています。



呼吸器・アレルギー内科専攻医 森川諒一